

第38回

地方の若手弁護士に聞く～北海道網走市 編～

聞き手：新進会員活動委員会委員 高橋 健一（62期）

新進会員活動委員会による地方の若手弁護士へのインタビューの第8弾として、元東京弁護士会会員であり、現在は北海道網走市でオホーツク北斗ひまわり基金法律事務所を開設しておられる川瀬敏朗弁護士（51期）にお話をうかがいました。

——北海道網走市について紹介してください。

網走市は、オホーツク海に面した北海道の東部に位置する人口4万人弱の街です。農業、漁業、観光業が主な産業です。「山、海、川、湖を全て楽しめ、それらから得られる豊かな水産物、農産物、風景も楽しめる」という市の観光パンフレットのフレーズがまさに体感できる場所だと実感しています。また、世界遺産の知床までは車で1時間30分程度の距離にあります。

車で30分弱の女満別空港が最寄りの空港ですが、東京、名古屋、札幌に直行便があり、都市へのアクセスは恵まれています。

当事務所から車で5分程度のところに釧路地家裁の網走支部があり、網走市と周辺4町で支部内人口は7万人強です。本庁は150km離れた釧路市にあり、車で行くと3時間弱かかります。

——経歴について教えてください。

私は、福島県の出身で、東京の大学に行き、修習は大阪でした。その後、東京弁護士会に弁護士登録して7年間勤務弁護士として勤務し、平成18年5月に当事務所を開設し現在に至ります。それまで北海道には何のゆかりもありませんでした。

——ゆかりのない網走で開業したことに理由はあったのですか。

公設事務所に赴任することを決め、候補地を検討して



いるなかで、どうせ行くなら最も東京から離れているところにしようと思い網走にしました。とは言え、東京から離れる寂しさもあったので、正直なところ直行便での東京へのアクセスがいいのもポイントでした。

——業務内容や受任のルートについて教えてください。

平成23年度ですと、民事事件では、濃淡はありますが相談を超えた業務を受任したものが約100件ありました。東京と比べ紛争額が低額となるので、書類作成のみを受任する等できるだけ依頼者の方の負担を少なくするよう心がけています。また、刑事事件は28件担当しています。

業務内容につき現状では、件数、労力、収入を総合した雑駁なイメージとして、裁判所手続を含めた個人債務整理50%、一般民商事事件30%、管財事件を含めた事業者債務整理10%、刑事事件10%といったところです。

受任のルートとしては、当初は飛び込みの方がほとんどでしたが、5年経過した今でも半数程度の方は広告等がき

川瀬 敏朗 弁護士 (51 期)

1974年 福島県生まれ。1997年 早稲田大学法学部卒業。
1999年 東京弁護士会登録。2006年 釧路弁護士会登録、
オホーツク北斗ひまわり基金法律事務所開設。



川瀬弁護士(左)と聞き手の高橋委員

っかけで相談にみえます。これは、東京時代との大きな違いで、私からも依頼者の方からも一から信頼関係を築かなければならないという苦労があります。

——刑事事件はどのように対応していますか。

刑事事件については、毎日が当番という状態で、当番弁護、被疑者国選とも随時対応しています。網走署と、車で50分程度かかる斜里署の事件を担当しています。起訴後は、網走刑務所が拘置所を兼ねており、そちらで接見をしています。

イクラ目的の鮭の密漁、野生大麻採取の事件等の網走ならではの事件も毎年季節になると担当しています。

裁判員裁判は本庁でのみ実施されます。150kmの距離、3時間弱の移動時間を考えると、非常にタフな状況が予想されます。

——網走では弁護士は足りていると思いますか。

現在、網走市には2名の弁護士がいます。忙しすぎて受任すべき事件を受任できないということもなく、明らかに不足しているとは思っていません。ただ、潜在的なものも含めて全ての法的需要を受け止められているかという点と確信はもてません。

率直なところ、さらに弁護士が増えた場合、個人債務整理が落ち着いた後に収支的な面でどのような状況になるかは不透明ですが、周辺地域を含めて新たな需要を生み出すための活動は続けていきたいと思っています。

——網走で働いてよかったと思うことはありますか。

田舎育ちの私には、人口4万人弱という街の規模が、街の一体感もありつつ、他方である程度の匿名性も確保できるという点で、バランスが良く、心地良さを感じてい

ます。ただし、5年もいるとさすがに顔も割れてきて、先日市内の店で飲み過ぎたので反省しています。

また、北海道の方は、都会でなくてもねちっこさがなく、さっぱりした性格の方が多く接しやすいです。

——網走で仕事をするにあたって心がけていることはありますか。

私は、とにかく地域の方に私の存在を知ってもらい、相談にきてもらわなければ網走来た意味があまりないと考えているので、地域の会合、組織、イベントに積極的に参加していますし、飲みにも良く出かけます。そのようにしても、利益相反で受任をお断りすることはほとんどありません。

——今後も網走で働かれるおつもりですか。

私自身は定着したいと思っていますが、残念ながら家族の完全な了解を得るには至っていません。現状では、なし崩しの既成事実化を図るつもりですが、もし、妻と面識のある方がこのインタビューを読まれていれば、司法過疎解消のため、やんわりと妻を説得していただきたいと思います。

——網走のお勧めスポットを教えてください。

網走地域の観光地としての魅力は道内でも随一だと確信しています。

道内でもブランド力のあるオホーツク海の水産物、「611の丘」、「感動の途」、「能取岬」などの風景、実際に使われていた刑務所や裁判所の建物を移築した網走監獄博物館、季節によっては流水観光船、スノーモービル等のアクティビティ等は、子供からご高齢の方までひろく楽しんでいただけたと思います。知床、網走についての情報は、是非当職宛てにお問い合わせください。